

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G202	マクロ経済学 I	2年	講義	2	森寛史
<b>授業概要</b> マクロ経済学は、様々な分野の経済学やシティライフ学を学んでいく上での最も基礎的で重要な科目の一つある。また、経済学入門履修後の科目として位置づけられているので、入門での内容を踏まえつつも、より論理的かつ厳密に講義を行っていく。ただし、たくさんのことを学ぶのではなく、必要最小限度の基礎的な理論を正確に理解できるように講義する。また、時間が許せば進展著しいマクロ経済学のトピックスについても触れる予定である。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> 巨視的視点から見た一国経済の仕組みや国民所得の水準が決定する理論についての理解を深めること、そのことと合わせて今日の日本並びに世界の経済情勢についての見方を養うことを目標とする。学習を通じて、マクロ経済が私たちに生活と深く関わっていることを理解する。(DP3)					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	マクロ経済学とは何か	マクロ経済学は、どのようなことを学ぶのかを講義する。			
2	マクロ経済学とGDP、その1	ケインズ経済学と新古典派経済学の考え方の違いについて説明する。			
3	マクロ経済学とGDP、その2	GDPの考え方、GDPと物価等について考察する。			
4	マクロ経済学とGDP、その3	経済成長とは何か、GDPの三面等価の考え方について講義する。			
5	マクロ経済における需要・供給	2つのサイドからマクロ経済を見ることの有用性、重要性について講義する。			
6	有効需要と乗数メカニズム、その1	需要不足がもたらす不況、景気の波及メカニズムについて考察する。			
7	有効需要と乗数メカニズム、その2	消費性向と乗数との関係について取り上げる。			
8	有効需要と乗数メカニズム、その3	マクロ経済におけるサイクルとしての所得・需要・生産の相互メカニズムについて講義する。			
9	有効需要と乗数メカニズム、その4	45°線分析による所得決定の考え方について考察する。			
10	有効需要と乗数メカニズム、その5	投資・政府支出の変化が所得の決定に及ぼす影響について説明する。			
11	有効需要と乗数メカニズム、その6	具体的事例に即して所得がどの水準に決定されるか、演習を行う。			
12	貨幣の機能、その1	貨幣の定義とその機能について説明する。			
13	貨幣の機能、その2	金融システムとマネーサプライのメカニズムについて講義する。			
14	貨幣の機能、その3	信用乗数とその背後にあるメカニズムについて講義する。			
15	貨幣の機能、その4	大恐慌やバブルの経験に学び金融政策の重要性について考察する。			

準備学修(授業外の自己学修)

身近な生活に密接に関わっているマクロ経済の動向について常に注意を払うように心がけるようにする。日本経済新聞や経済雑誌などにも目を通すようにして現在のマクロ経済の実態と理論、政策との関連性に目を配るようにすること。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末テスト80%、出席・授業態度20%

観点	S	A	B	C
マクロ経済と私たちの生活との関連についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
一国の所得水準がどのように決定されるのかについての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

中谷巖 『入門 マクロ経済学 第5版』 (2007/3) 日本評論社、3024円

参考書等

福岡正夫著『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社

岩田規久男『基礎コース マクロ経済学』新世社 他

履修上の注意・学修支援

経済学を理解するためには、知識を基礎から少しずつ積み上げて行くことが肝要なので講義に出席をすることは当然として、予習・復習を欠かさずに行うよう心がけること。